

推奨学年：
第2学年～

小学生の音楽2 P.15、33

「2びょうしで リズムあそび」

育てたい力

- ・ 2拍のまとまりを感じ取って、リズムを打ったり体を動かしたりする。
- ・ 音色やリズムの組合せを工夫して、即興的に2拍子のリズムを打つ。

教材や教具

●教科書の二次元コード

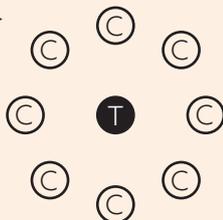
第2学年 P.15 「2びょうしの 手あそび」
P.32 「リズム①」「リズム②」
P.36 「リズム」

- 指導者が拍を示すための楽器（クラベス、カウベルなど）、またはオルガンのメトロノーム機能など

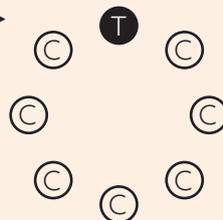
場の設定

- ・ 机がない教室では子供◎が輪になって座り、指導者●は輪の中に立ったり子供と一緒に輪に加わって座ったりする。

<例1>



<例2>



- ・ リズムカードなどの板書を見るときは、輪の中央に集まって床に座ったり、椅子を前向きにして座ったりする。
- ・ 机がある教室では、後方の座席の子供の表現を聴くときに、体の向きについて助言したり、グループ活動などの学習形態に応じて机を向かい合わせにしたりする。

1 拍打ち遊び

拍のまとまりを感じ取って手拍子を打つ。

1 手拍子で拍打ちリレー

1) ♩=84~108 で一人1拍ずつ順に手拍子を打つ。



2) ♩=84~108 で一人2拍ずつ順に手拍子を打つ。



ポイント

- ・メトロノームや指導者の拍打ちを聴くことで、拍を感じ取ることができるようにします。最初はゆっくりとした速度（♩=72~80）で行い、少しずつ♩=100ぐらいにしていくようにします。
- ・1)の1拍ずつのリレーと比較することで、2)の2拍のまとまりをより感じ取りやすくなります。
- ・支援が必要な子供には、指導者が1拍目のタイミングを指示して補助するようにします。

2 打楽器で拍打ちリレー

カスタネットやタンブリンなどの打楽器を使って、1) 2)の活動を楽しむ。

ポイント

- ・楽器の数に限りがある場合は、学級全体をいくつかのグループに分け、交替して聴き合ったり、様々な楽器を組み合わせるリレーして音色の違いを楽しんだりすることもできます。

<例>  グループ →  グループ →  グループ → … (続ける)

2 2拍子の手遊び

2拍子の音楽に合わせて、強拍と弱拍を感じながら  のリズムを繰り返し打つ。

※教科書P.15「2びょうしの手あそび」二次元コード参照

1 一人で  のリズムを繰り返し打つ。

2 二人で手合わせをして遊ぶ。

- 1) 2拍子の音楽に合わせて、二人で  のリズムを繰り返し打つ。
- 2) ペアを変えて、いろいろな友達と2拍子の手合わせをして遊ぶ。



ペアで拍にのって手合わせができれば、人数を増やして輪になって、左右の隣の人と手合わせをしてみましょう。

ポイント

- ・活動の最初に指導者と代表の子供で動きの例を見せておきます。
- ・二人で向かい合って立つと活動しやすくなります。
- ・うまく拍にのれない子供は、拍にのっている子供や指導者と一緒にペアを組むと、拍を共有しながら無理なく2拍子の感覚を捉えることができるようになっていきます。
- ・体のいろいろな部分を使って音色を工夫することもできます。また、1拍目を強拍が感じられるような音色にすると、2拍のまとまりが分かりやすくなります。

3 シェーカーパスを楽しむ。

学級全体で輪になって座り、手合わせをしながら、シェーカーを右隣の友達に回していく。左手のひらを上に向けた状態で、次のように活動する。

- 1 拍目：左手のひらに持ったシェーカーを右手で打つ。
- 2 拍目：そのシェーカーを右手で持ち、右隣の友達の左手の上に置き、同時に、自分は左隣の友達からシェーカーを左手で受け取る。

ポイント

- ・最初は「1、2」と拍を声に出して数えながら、ゆっくりとした速度（♩=60ぐらい）で動きを確認します。何回か試すうちに、音楽に合わせてたり歌ったりしながらシェーカーを回せるようになります。
- ・3拍子（3拍目で隣へ回す）、4拍子（4拍目で隣へ回す）でも同様に拍子を感じて遊ぶことができます。

4 2拍子の遊びうたを楽しむ。

<例> 「おちゃらか ほしい」「おてぶしてぶし」「なべ なべ そこ ぬけ」「アルプス一万尺」などの曲で楽しめます。

3 2拍子のリズム遊び

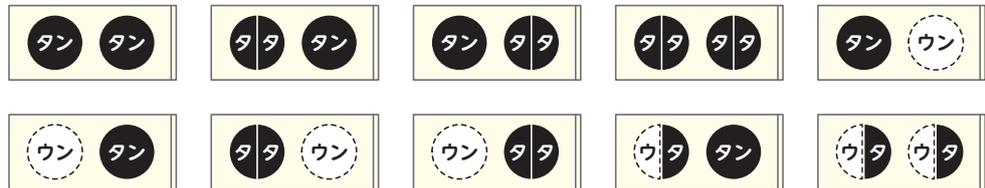
2拍子のリズムを即興的に選んだりつくりたりし、それらを組み合わせて様々なリズムの表現を楽しむ。

1 2拍子のリズムをまねっこする。

1) 指導者の打つ様々な2拍子のリズムを子供全員でまねっこする。



<2拍子のリズムの例>



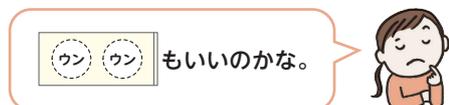
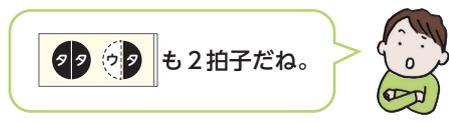
ポイント

- ・ 同じリズムを繰り返し模倣し、学級全体が打てるようになったら、声をかけて次のリズムに変えるようにします。
- ・ 指導者が打つ様々なリズムを模倣することで、2拍子のリズムの発想を得ることにつながっていきます。
- ・ 8分休符があるリズムは、場合によっては難しいかもしれません。子供の実態や学習状況に応じて、扱うリズムの種類を限定することが大切です。
- ・ 慣れてきたら、指導者の代わりに代表の子供が呼びかけ役になったり、子供どうしのペアやグループで役割を交替したりすると、次の2)の活動にスムーズにつながられます。

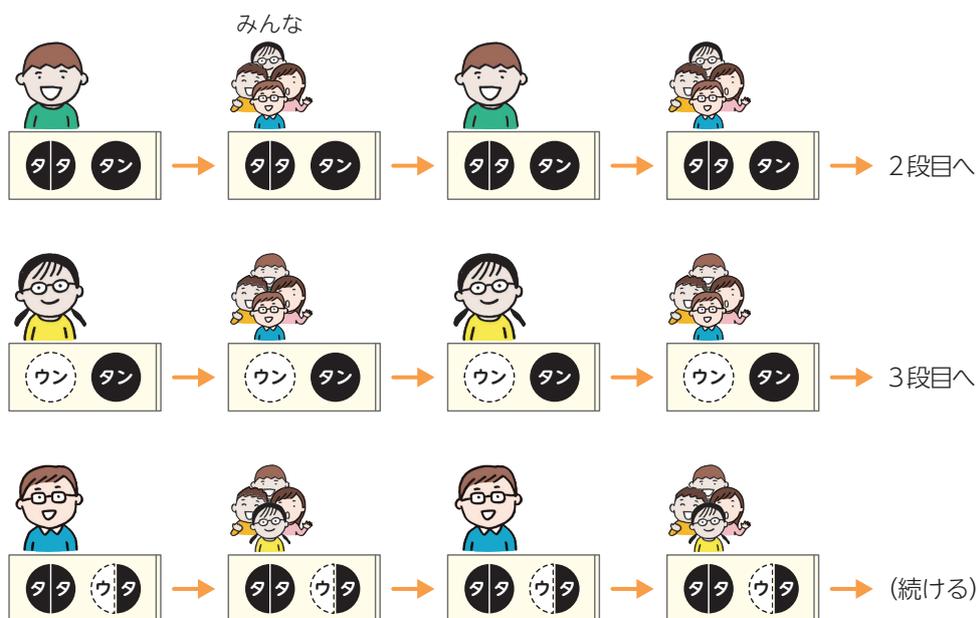
2) <2拍子のリズムの例>からリズムを選び、いろいろなまねっこをする。



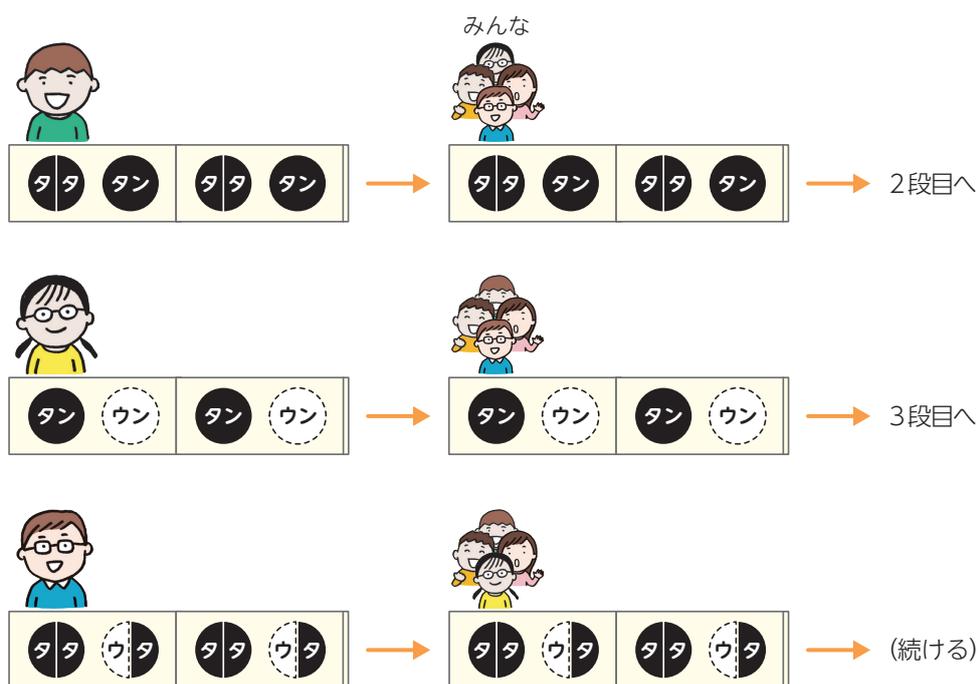
<2拍子のリズムの例>からリズムを一つ選びましょう。ここに示していないリズムを自分でつくってもいいですよ。どんなリズムができるかな。



① 一人とみんなのまねっこを2回ずつ繰り返し、リレーする。



② 2拍子のリズムを2回繰り返し、一人とみんなでまねっこし、リレーする。



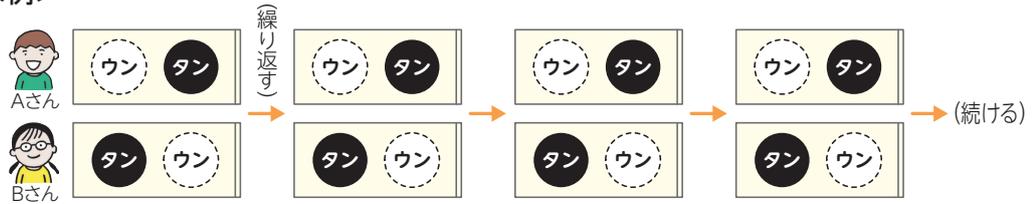
ポイント

- ・②の活動では、2拍のリズムを反復して2小節のフレーズにします。
- ・同じリズムを2回反復することができたら、異なるリズムを組み合わせで  というように、即興的にリズムをつくってもよいでしょう。
- ・2年生『6.くりかえしを見つけよう』の「おまつりの音楽」の音楽づくりの学習にもつながっていきます。

2 2拍子のリズムを重ねて打つ。

※教科書P.32「リズム①」二次元コード参照

<例>



- 1) 学級全体を半分に分け、AさんとBさんのリズムを重ねて手拍子で打ち、繰り返す(途中で役割を交替する)。
- 2) 2拍子の曲に合わせて、全体、グループ、ペアなどでリズムを重ねて打ち、音の重なりを楽しむ。

ポイント

- ・ **タン** を **タタ** にしてAさんとBさんのリズムの組合せを変えたり、手拍子の音色を変えたりするなど、活動を発展させることもできます。

題材の学習内容や教材との関連

1 常時的な活動として位置付ける

軽快な2拍子にのって、楽しく音楽を学習する雰囲気をつくる。

● 様々な学年での授業の開始時に行う。

2拍子の曲に合わせて体を動かす。



音楽をよく聴いて、拍に合わせて歩きましょう。そして、音楽が止まったらその場で止まりましょう。どうやって歩くと拍に合うかな。

腕を振って2拍子を感じて歩いてみよう。



友達と足の動きを合わせよう。



<例>

音楽に合わせて歩く → 止まる → 活動内容 3 1 1) 指導者と子供で2拍子のリズムまねっこ遊び →
 音楽に合わせて歩く → 止まる → 指導者が打つ手拍子の数と同じ人数の友達集め →
 活動内容 2 2) 音楽に合わせて2拍子の手合わせ

ポイント

- ・ <例>のように、慣れてきたら歩くだけではなく、リズムのまねっこや手合わせ遊びを行うなど、子供たちと相談しながら活動のアイデアを広げていくことができます。毎時間継続して活動することで、音を聴く力や拍子感が育ちます。

2 題材の学習と関連付ける

題材のねらいに沿った活動の仕方や表現を工夫し、「拍打ち遊び」や「リズム遊び」を行う。

1 第2学年 題材2 『はくの まとまりを かんじとろう』

「はしの上で」(教科書P.14)、「ミッキーマウス マーチ」(教科書P.18)

- 1) 学習の導入で1拍や2拍の「拍打ちリレー」をする。
- 2) 「はしの上で」を歌いながら、ペアで2拍子の手合わせの仕方を工夫する。
- 3) 「ミッキーマウス マーチ」に合わせて、2拍子を感じ取りながら歩いたり、リズムのまねっこをしたりする。

<例> aabaの曲の形式を生かして

前奏(・間奏): その場で拍にのって体を動かす(足踏みをするなど)

a: 歩く b: 止まって近くの友達と手合わせ a: 再び歩く

2 第2学年 題材5 『リズムを かさねて 楽しもう』(教科書P.32~37)

- 1) 学習の導入で曲に合わせて2拍の「拍打ちリレー」をする。
- 2) 「この空とぼう」(教科書P.33)の旋律を4小節ごとに四つのフレーズに区切り、旋律のリズムを、体を使った音で即興的に表現する。



四つのフレーズから一つ選んで、リズムを打ちましょう。
体を使った音をどのように工夫したらいいかな。

<例> 「この空とぼう」冒頭4小節



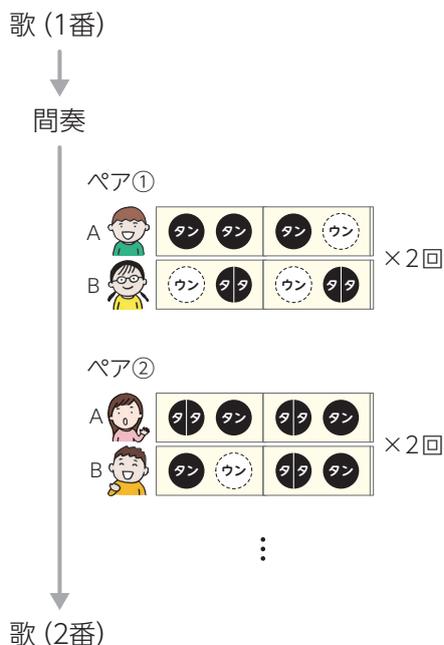
手拍子 ・ 手拍子 ・ おなかを打つ 足踏み ・

ポイント

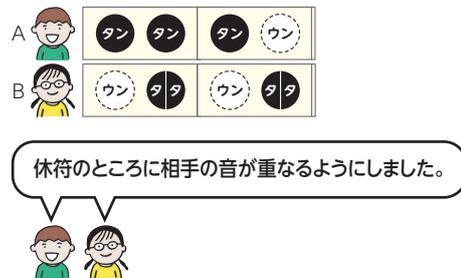
- ・最初は、リズム譜の視奏の力を育むことをねらいとして、学級全体で手拍子でリズム打ちをします。
- ・この活動を通して4小節のリズムのまとまりを感じ取ることにより、教科書P.32「リズム②」に取り組みやすくなります。
- ・個人、ペア、グループなど、様々な学習形態を工夫できます。
- ・「山のポルカ」(教科書P.36)でも同様の活動ができます。

- 3) ペアまたは四人の組でリズムを重ねる。
 - ① ペアや組の中でAとBに分かれ、それぞれ2拍子のリズム(2小節4拍分)を即興的につくる。
 - ② AとBのリズムを重ね、繰り返す。
 - ③ つくったリズムを聴き合ったり、「山のポルカ」の間奏や後奏として表現したりする。

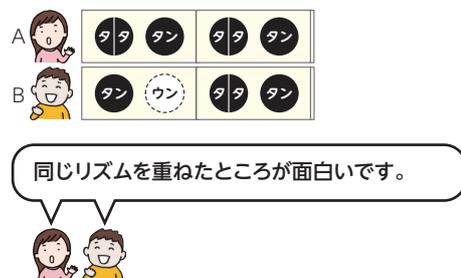
<ペアで行う例>



<重ねたリズムの例1>



<重ねたリズムの例2>



3 第3学年 題材4 『拍にのってリズムをかんじとろう』

「ゆかいな木きん」(教科書P.30)、「アチャ パチャ ノチャ」(教科書P.33)

- 1) 「ゆかいな木きん」(P.30)、「アチャ パチャ ノチャ」(P.33)の導入として、「拍打ち遊び」「2拍子の手合わせ遊び」「2拍子のリズム遊び」などの活動を行う。
- 2) 「ゆかいな木きん」の3・4、7～8、15～16小節の旋律のリズムを即興的に変化させて木琴で演奏する。



ポイント

- ・もとの旋律を木琴で演奏できるようになってから、この活動を行います。
- ・既習の2拍子のリズムパターンをいくつか示し、自分でリズムを選んだり組み合わせたりできるようにします。
- ・♪などの16分音符を用いる子供がいた場合、拍にのって演奏することができれば使用してもよいこととします。
- ・鍵盤ハーモニカでもタンギングを工夫すれば同じように活動できます。

「手拍子でリズム」(教科書P.34)

「手拍子でリズム」では、4拍子のリズムを扱う。2拍+2拍で拍のまとまりを捉え、これまでの2拍子の学習を生かしてリズムをつくり、そのつなげ方を考える学習へと展開する。

ポイント

- ・楽器の音色を生かしたりリズムを考え、それを即興的に重ねて音楽にする活動を行えば、5年生の「打楽器でリズムアンサンブル」(教科書P.30)の学習にも活用できます。